

立命館 災害復興支援室 瓦版

かわらばん

【第17号】 2013年4月30日発行

【告知】大船渡市との協定締結

1周年記念フォーラム開催！！

災害復興支援室では、2012年4月に立命館大学と岩手県大船渡市で締結した「災害復興にむけた連携協力に関する協定」の1周年を記念したフォーラムを開催します。

立命館は協定締結以降大船渡市において、後方支援スタッフの派遣やスポーツ健康科学部における運動・健康科学面での支援などの取り組みを行ってきました。今回は大船渡市長戸田公明氏を京都にお迎えし、大船渡市の現状や課題の共有とともに、復興整備計画に触れながら教育・研究機関である大学が担う復興支援の役割について考える機会とします。これまで大船渡に関わってきた教職員、学生の報告も予定しています。多くの学生・教職員、市民のみなさまの参加をお待ちしています。

岩手県大船渡市と立命館大学
協定締結1周年記念フォーラム

復興のたまご

～大船渡と立命館が育てた1年～

■日時：
2013年5月16日（木）17:00-18:30
16:45 開場

■会場：衣笠キャンパス充光館 301 教室
■主催：災害復興支援室



■プログラム
【第1部】クロストーク
「大船渡市の復興の現状と課題について」
挨拶：川口清史氏
（学校法人立命館総長／立命館大学長）
報告：
戸田公明氏（大船渡市長）
塩崎賢明氏
（政策科学部特別招聘教授／
大船渡市復興計画推進委員会委員長）
【第2部】リレートーク
「事例発表：大学生・教職員の視点で復興を考える」
●坂田謙司氏（産業社会学部教授／サービスラーニングセンター副センター長）
●田門宜子氏（総務部保健課保健師）
【復興支援ボランティア参加学生
登壇者によるパネルディスカッション】
＜モデレーター＞
山口洋典氏（災害復興支援室チーフディレクター／共通教育推進機構准教授／サービスラーニングセンター副センター長）
■参加申込み：事前申し込み不要
■問合せ先：災害復興支援室
Tel：075-813-8130
e-mail：311fukko@st.ritsumeit.ac.jp

5/4・5 碓石海岸観光まつりへの

課外活動学生団体派遣バス運行

岩手県大船渡市にある国立指定公園の「碓石海岸」で、5/4（土）・5（日）の2日間にわたり、「碓石海岸観光まつり」が開催されます。このお祭りの主催者で、立命館大学と災害復興に向けた連携協力に関する協定を結ぶ大船渡市からのご依頼を受けて、2013年度の大船渡市での拠点形成事業の第1弾として、このお祭りを盛り上げるための学生派遣を行ないます。

今回の派遣では、災害復興支援室と学生部とサービスラーニングセンターが連携し、お祭りのステージ企画への参加のため、課外活動団体を募集。ダブルダッチサークルとして世界大会入賞の経験をもつ Fusion of Gambit と、ストリートダンスのサーク

ル R.D.C のメンバー計 25 名がお祭りを盛り上げます。

お祭りと学生のステージの様子は、災害復興支援室の facebook からレポートする予定です。



【報告】理工学部宗本准教授

記憶の街ワークショップ in 田老

4/9(火)～14(日)の期間、岩手県宮古市の田老地区で、震災前の街並みの記憶を辿る企画「記憶の街 ワークショップ in 田老」が開催されました。このワークショップは、震災によって失われた街や集落を白い模型によって復元し、地域の方々と共に記憶を辿ることで色鮮やかな「記憶の街」を作り上げていく催しで、人々の暮らしや街並みの保存・継承を目的とした「失われた街 - 模型復元プロジェクト - 」の一貫で開催されたものです。仮設集会所 O D E N S E 建設で宮古市と縁のある理工学部の宗本研究室が田老地区を担当し、研究室のメンバーや理工学部建築都市デザイン学科の学生らの手によって、震災前の田老の街が 1/500 の白い模型で復元されました。



ワークショップは、9、10 日は田老公民館で、11～14 日はグリーンピア三陸みやこで行われ、住民の方からの話を参考にしながら、模型の色付けや、建物の大きさや形などの修正作業が行われました。連日、多くの住民の方がワークショップに参加し、自ら色付けをしたり、学校や運動場の様子を丁寧に説明したりするなどの姿が見られ、震災当日の様子を語る参加者の言葉に、学生は真剣に耳を傾けていました。

街並みを再現し完成された模型は、住民の方々に見てもらえるようにと、「ふるさとの記憶 - いわて失われた街 模型復元プロジェクト展」として、5/11～15 日は田老公民館で、5/16～19 日はグリーンピア三陸みやこで展示されます。また NHK 盛岡放送局ではこれまでの活動を密着取材し、ドキュメント番組「シリーズ“ふるさとの記憶”」として作成。その第2回目として宮古市、田老地区が取り上げられ、5/10（金）総合 7：30～7：55（岩手県内向け）で放送される予定です。ぜひご覧下さい。

【報告】そよ風届け隊

活動報告会「そよ風の吹くしま」

4月26日（金）福島県での復興支援活動を行なった学生たちによる報告会が衣笠キャンパス 諒友館地下食堂 ROSSO で開催されました。

「そよ風届け隊」は、福島県いわき市で復興支援活動に取り組む有志の学生たちで、2013年2月7日～13日（1期）と2013年2月28日～3月6日（2期）の派遣ツアーを企画。学内奨学金制度「2012年度学びのコミュニティ 集団形成助成金」にも採択されていま

これからの主な取り組み

○5/2（木）～5/6（月）大船渡碓石海岸観光まつりへの課外活動学生団体派遣
○5/11（土）～5/17（金） 予定 写真・企画展「リメンバー大槌」BKC 開催
被災した大槌町住民の方々から寄せられた写真を展示します。3月には3.11 追悼企画開催にあわせ衣笠で開催しましたが、巡回し、今回は BKC で開催します。
○5/11（土）～5/19（日）
「ふるさとの記憶 - いわて失われた街 模型復元プロジェクト展 in 田老」
○5/16（木）17:00～18:30 大船渡市との協定締結1周年記念フォーラム開催

<それぞれの取り組みの詳細については、今後 HP や瓦版でお伝えします。>

立命館では東日本大震災発生2011年4月21日に「立命館災害復興支援室」を設置し、被災地域の大学からの支援要請など緊急的・総合的に判断・対応を行なう窓口として活動を開始しました。現在は、学生の支援ボランティア活動、支援に関わる教員の教育・研究活動へのサポートを行なうとともに、ひきつづき学内外の情報発信と支援ニーズ・シーズの整理・具体化に関する調整を行なっています。

【報告】生命科学部

鈴木佑治教授の取り組み

2012 年度東日本大震災に関する研究推進プログラムに採択された取り組みのひとつである、生命科学部鈴木佑治教授の『東日本大震災復興支援英語プログラム：「プロジェクト発信型英語プログラム」のライフロング・モデルの実践』と関わって、4/6（土）福島県から山形市に自主避難している子どもたちがびわこ・くさつキャンパスを訪れ、生命科学部の学生や教員と英語を通じた交流を行いました。



この取り組みは、自主避難している家庭は母子避難のケースが多く、かつ母親は働きに出る場合が多いため、夏休みなど学校が休みの時はなかなか子どもの面倒が見られないという現地の声に鈴木教授らが応えたものです。

鈴木教授らは2012年8月と、2013年1月に山形市を訪問し、英語の歌を皆で練習して歌うことや、屋外で遊びながら英語を使ってみる取り組みなど、子どもたちが楽しみながら学べる活動を行いました。今回は鈴木教授らの活動への御礼と、子どもたちに大学を見て、感じてほしいという保護者の想いから訪問が実現しました。

当日は、子どもたちがキャンパス内の様々な場所を巡りながら、見たもの、感じたことを英語で紹介。その様子をスマートフォンで撮影して、各自が動画を持ちより、発表を行いました。また、子どもたちから鈴木教授や学生たちへ、御礼の意味を込めた英語の歌やダンスも披露されました。

編集後記

今年3月に開催しました3.11 追悼企画「いのちのつどい」でご参加いただいた皆さんに配布したひまわりの種。先日私も蒔いてみました。タネまきは2～8月とあり、配布後早速蒔かれた方からはもうすでに芽が出てきたよ！の声もいただいています。この夏色々な場所で、このひまわりが元気に花咲くことでしょう。楽しみます。

立命館大学災害復興支援室瓦版【第17号】

発行人・編集 立命館災害復興支援室

075-813-8130（総合企画課内）

メール 311fukko@st.ritsumeit.ac.jp

HP <http://www.ritsumeit.ac.jp/rs/20110311/>